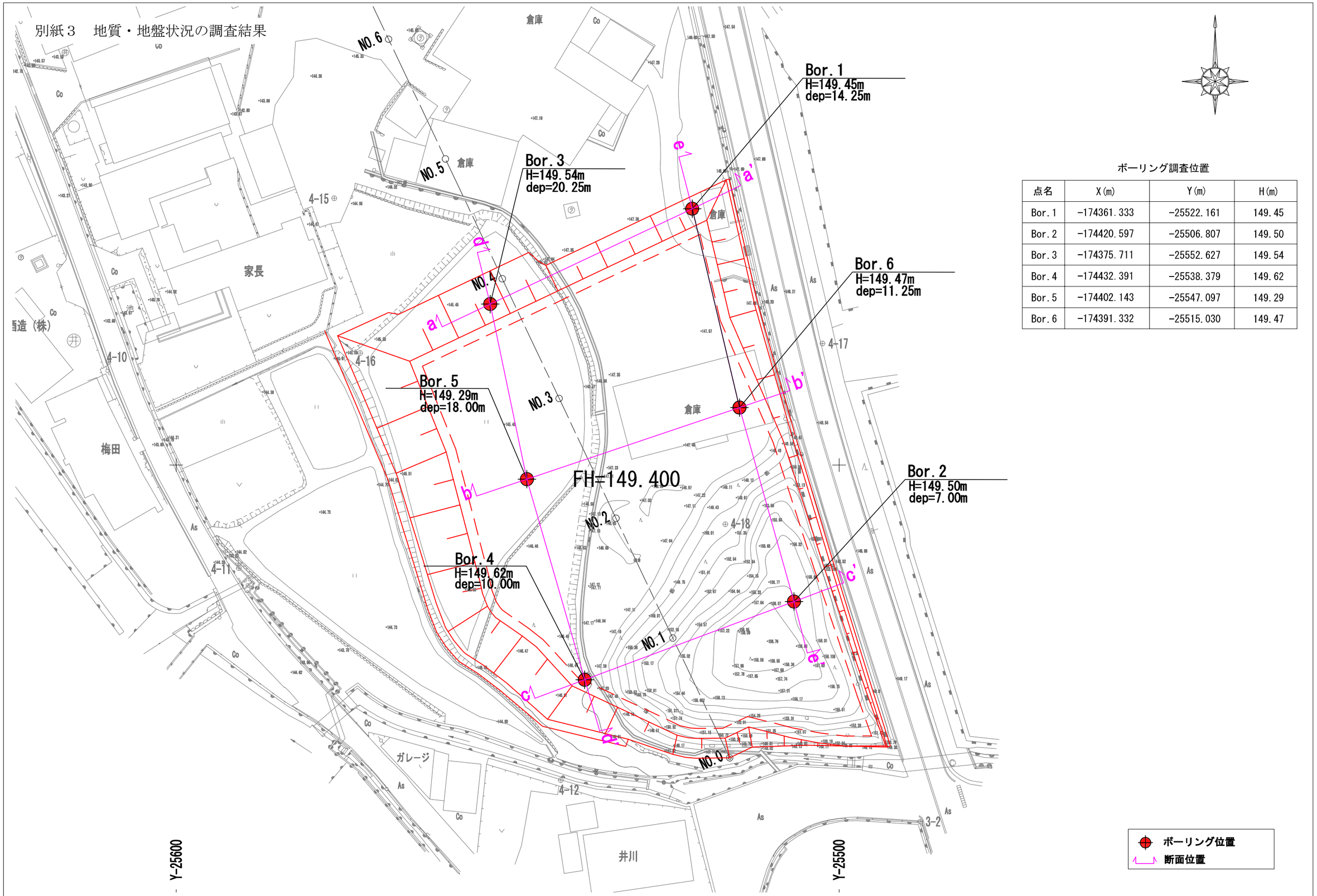
別紙３　地質・地盤状況の調査結果



ボーリング調査位置

点名	X(m)	Y(m)	H(m)
Bor.1	-174361.333	-25522.161	149.45
Bor.2	-174420.597	-25506.807	149.50
Bor.3	-174375.711	-25552.627	149.54
Bor.4	-174432.391	-25538.379	149.62
Bor.5	-174402.143	-25547.097	149.29
Bor.6	-174391.332	-25515.030	149.47

図-1.2.1　調査位置平面図(S=1:500)

ボーリング柱状図

調　査　名　御所市健康管理増進スポーツ施設整備事業に係る地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

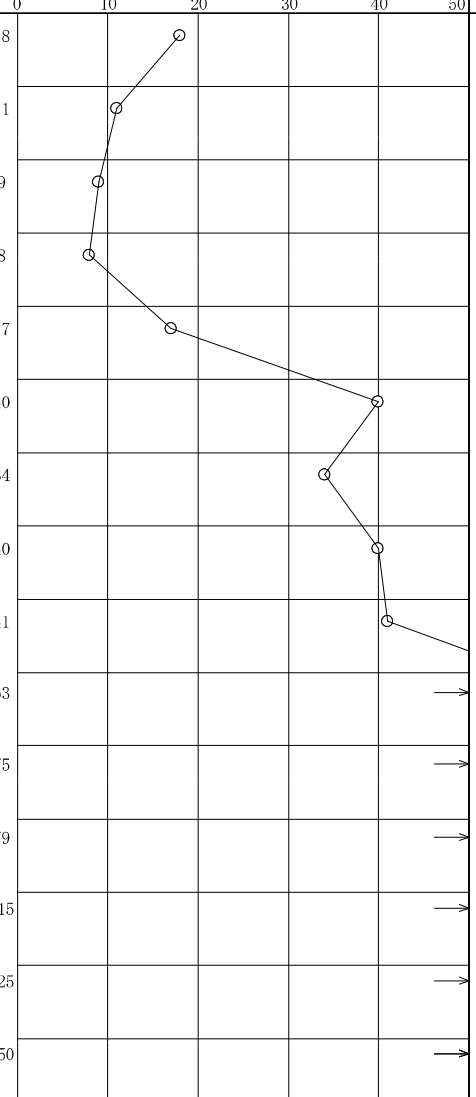
シートNo

ボーリング名	Ｂｏｒ．１	調査位置	御所市小殿　地内							北緯	34° 25’ 40.51”
発注機関	やまと広域環境衛生事務組合			調査期間	令和 4年 10月 13日 ～ 4年 10月 14日					東経	135° 43’ 20.33”
調査業者名	株式会社　大同ソイル 電話（０７４５－６３－１８５０）	主任技師	大塚　孝	現場代理人	松川眞也	コア鑑定者	大塚　孝			ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	H=149.45m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機	KR－100HB	ハンマー落下用具	半自動
総掘進長	14.25m								エンジン	NFAD－10	ポンプ	V6－A

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2 3	146.45	3.00	3.00		盛土（礫混じり砂）	茶褐～暗茶褐灰			真砂土による盛土。細砂～粗砂が混在する。 φ2～25mmの風化礫が全体に混じる。 不規則に暗灰の砂質粘土が混じる。	
4	144.95	1.50	4.50		砂	灰褐	緩い～中位		上部は細砂主体、下部は中砂主体。 不規則にφ5～25mm亜角礫が点在。	10/14 3.65 ▽
5	143.75	1.20	5.70		砂礫	暗褐灰	密		φ2～30mm花崗岩亜角礫～角礫主体。 礫間は細砂～粗砂が混在する他、少量の粘土が混じりやや含水する。	
6 7 8	140.95	2.80	8.50		花崗岩強風化帯	灰褐			風化著しく、シルト質砂状となる。 岩組織は明瞭に残るが、指圧で容易に潰れる。 φ5mm以下の石英が礫状に残る。 岩級はN値からDM級程度。	
9 10 11 12 13 14	135.20	5.75	14.25		花崗岩風化帯	暗褐灰			風化が進み、礫混じり砂状となる。 岩組織は明瞭に残るが、指圧で容易に潰れる。 φ5mm以下の石英が礫状に残る。 岩級はN値からDH級程度。	
15 16 17 18 19 20										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	5	7	6	18/30	18
0.45～1.15	4	3	4	11/30	11
1.45～2.15	3	3	3	9/30	9
2.45～3.15	3	2	3	8/30	8
3.45～4.15	5	6	6	17/30	17
4.45～5.15	12	13	15	40/30	40
5.45～6.15	10	11	13	34/30	34
6.45～7.15	11	13	16	40/30	40
7.45～8.15	15	14	12	41/30	41
8.45～9.15	15	22	13/4	50/24	63
9.39～10.15	21	29		50/20	75
10.35～11.15	24	26/9		50/19	79
11.34～12.15	33	17/3		50/13	115
12.28～13.15	41	9/2		50/12	125
13.27～14.15	50			50/10	150
14.25					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
4.15～4.45	P4	⊖	密・含・粒	10/13 10/14

ボーリング柱状図

調　査　名	御所市健康管理増進スポーツ施設整備事業に係る地質調査業務
事業・工事名	

ボーリングNo										

シートNo

ボーリング名	Ｂｏｒ．２	調査位置	御所市小殿　地内							北緯	34° 25’ 38.59”
発注機関	やまと広域環境衛生事務組合			調査期間	令和 4年 10月 11日 ～ 4年 10月 12日					東経	135° 43’ 20.94”
調査業者名	株式会社　大同ソイル 電話（０７４５－６３－１８５０）	主任技師	大塚　孝	現場代理人	松川眞也	コア鑑定者	大塚孝			ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	H=149.50m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	KR－100H	ハンマー落下用具 半自動
総掘進長	7.00m								エンジン	NFAD－10	ポンプ V5－P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1					花崗岩風化帯	灰褐～暗緑灰			表層10cm、礫混じり砂による表土。 以深は風化が進み、砂状～礫混じり砂状となる。 岩組織が残るが指圧で潰れる。 深度3.0m以深、暗緑灰色を呈す。 深度4.0m以深、未風化部が礫状となる。 岩級はN値からDH級程度。	
2										
3										
4										
5	144.50	5.00	5.00							
6					風化花崗岩	緑灰			風化した短柱状コアとなる。 コアは軟質ハンマー軽打で割れる。 岩級はCL級程度。	
7	142.50	2.00	7.00							
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	15		14／4	50／24	63
0.39	27	23／7		50／17	88
1.15					
1.32	41	9／2		50／12	125
2.15					
2.27	22	28／5		50／15	100
3.15					
3.30	43	7／2		50／12	125
4.15					
4.27	50／5			50／5	300
5.00					
5.05	貫入不能			50／0	
6.00					
6.00	貫入不能			50／0	
7.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						10／11
						10／12

ボーリング柱状図

調　査　名　御所市健康管理増進スポーツ施設整備事業に係る地質調査業務

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

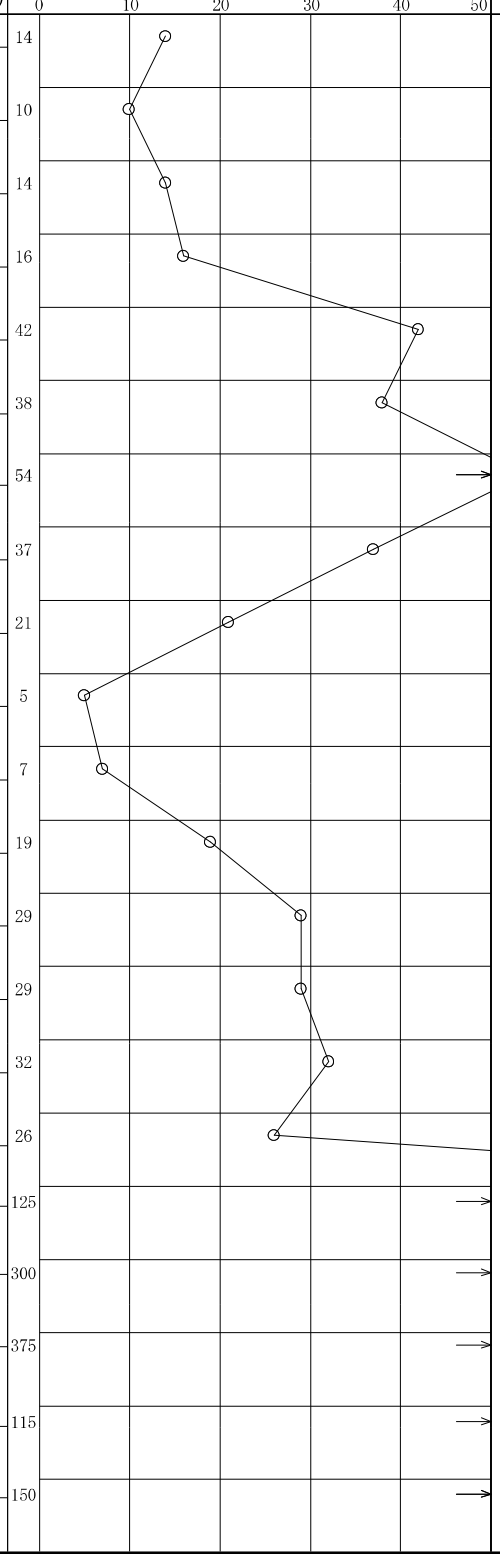
ボーリング名	Ｂｏｒ．３	調査位置	御所市小殿　地内							北緯	34° 25’ 40.04”
発注機関	やまと広域環境衛生事務組合			調査期間	令和 4年 10月 3日 ～ 4年 10月 5日					東経	135° 43’ 19.19”
調査業者名	株式会社　大同ソイル 電話（０７４５－６３－１８５０）	主任技師	大塚　孝	現場代理人	松川眞也	コア鑑定者	大塚　孝			ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	H=149.54m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	KR－100HB	ハンマー落下用具 半自動
総掘進長	20.25m								エンジン	NFAD－10	ポンプ V6－A

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1 2 3 4	145.24	4.30	4.30		盛土（礫混じり砂）	茶褐～暗茶褐			真砂土による盛土。細砂～粗砂が混在する。 φ2～10mm風化礫が多混する他、全体に少量のシルトが混じる。 深度1.0～1.5m間、φ20～30mmの未風化礫が混じる。 深度4.0～4.3m間、旧表土と思われるシルト混じり細砂となる。
5 6 7 8	141.19	4.05	8.35		礫混じり砂	暗茶褐灰	密～非常に密		粗砂が主体。φ2～10mm以下の風化礫が多混。 不規則にφ10～30mmの未風化礫点在する。 深度6.0m以深、やや含水する。
9 10 11	138.19	3.00	11.35		砂質粘土	暗青灰		中位	細砂～粗砂が多混する他、φ2～5mmの風化礫が不規則に混じる。 中～高含水比で粘性に富む。 下部に従って、砂の含有多くなる。
12 13 14 15	134.04	4.15	15.50		花崗岩強風化帯	暗緑灰			風化が著しく、シルト混じり砂～粗砂状となる。 岩組織は残るが、指圧で容易に砂状となる。 岩級はN値からDM級程度。
16 17 18 19 20	129.29	4.75	20.25		花崗岩風化帯	灰褐～淡青灰			風化進み、シルト質細砂となる。 固結状でやや硬いが、指圧で潰れる。 岩組織は長石片が明瞭に残るが、雲母片は不明瞭。 岩級はN値からDH級程度。

孔内水位(m)／測定月日：10/5 4.65

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	4	5	5	14/30	14
0.45～1.15	4	3	3	10/30	10
1.45～2.15	4	4	6	14/30	14
2.45～3.15	5	5	6	16/30	16
3.45～4.15	5	17	20	42/30	42
4.45～5.15	11	13	14	38/30	38
5.45～6.15	15	18	17/8	50/28	54
6.43～7.15	10	12	15	37/30	37
7.45～8.15	9	8	4	21/30	21
8.45～9.15	2	1	2	5/30	5
9.45～10.15	2	2	3	7/30	7
10.45～11.15	3	4	12	19/30	19
11.45～12.15	8	10	11	29/30	29
12.45～13.15	9	10	10	29/30	29
13.45～14.15	9	10	13	32/30	32
14.45～15.15	8	9	9	26/30	26
15.45～16.15	42	8/2		50/12	125
16.27～17.15	50/5			50/5	300
17.20～18.15	50/4			50/4	375
18.19～19.15	37	13/3		50/13	115
19.28～20.15	50			50/10	150
20.25					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
5.15～5.45	P5	⊖	密・含・粒	10/3
9.15～9.45	P9	⊖	密・含・粒・液塑性	10/4
				10/5

ボーリング柱状図

調査名	御所市健康管理増進スポーツ施設整備事業に係る地質調査業務
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	Bor.4	調査位置	御所市小殿　地内			北緯	34° 25’ 38.20”
発注機関	やまと広域環境衛生事務組合			調査期間	令和 4年 10月 6日 ～ 4年 10月 7日	東経	135° 43’ 19.70”
調査業者名	株式会社　大同ソイル 電話（0745-63-1850）	主任技師	大塚　孝	現場代理人	松川　眞也	コア鑑定者	大塚　孝
						ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	H=149.62m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	10.00m					使用機種	

試錐機	KR-100HB	ハンマー落下用具	半自動
エンジン	NFAD-10	ポンプ	V6-A

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	146.82	2.80	2.80		盛土（礫混じり砂）	淡褐灰			真砂土による盛土。 細砂～粗砂が混在する。 φ10mm以下の風化礫が多混する他、少量の植物片が混じる。
3	144.62	2.20	5.00		花崗岩風化帯	暗褐灰～暗緑灰			細上部、暗褐灰色を呈する。 風化が進み、礫混じり砂状となる。 岩組織は明瞭に残るが、指圧で容易に潰れる。 岩級はN値からDH級となる。
6	139.62	5.00	10.00		風化花崗岩	暗褐灰～青灰			最上部は暗褐灰色を呈する。 風化が弱まり、やや硬い軟岩コアとなる。 軟岩状でハンマーの軽打で砕ける。 岩級はCL級程度。

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	2	2	3	7／30	7
0.45～1.15	2	1	2	5／30	5
1.45～2.15	2	2	3	7／30	7
2.45～3.15	38	12／3		50／13	115
3.28～4.15	23	27		50／20	75
4.35～5.05	50／3			50／3	500
5.08～6.00	50／5			50／5	300
6.05～7.00	50／3			50／3	500
7.03～8.00	50／3			50／3	500
8.03～9.00	50／3			50／3	500
9.03～10.00	貫入不能			50／0	
10.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						10／6
						10／7

ボーリング柱状図

調査名	御所市健康管理増進スポーツ施設整備事業に係る地質調査業務
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

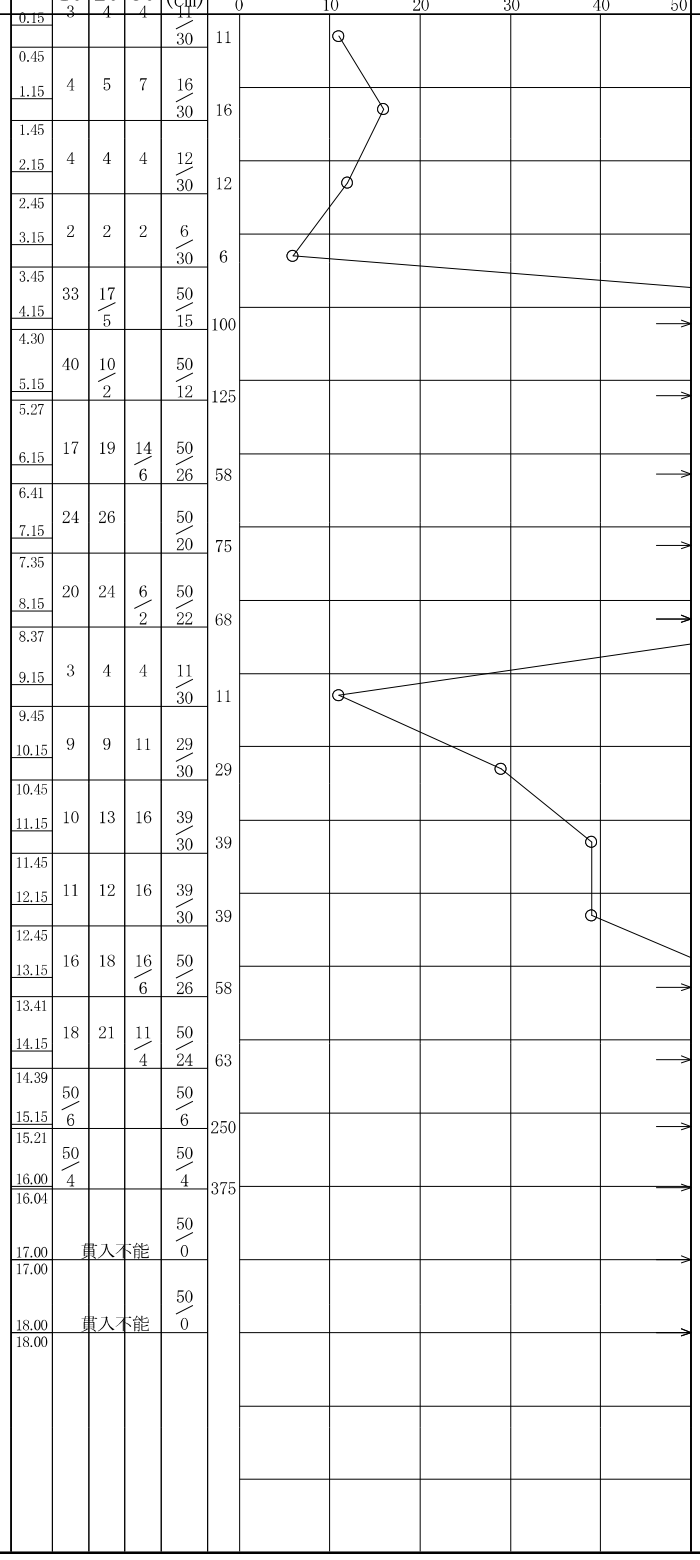
ボーリング名	Bor.5	調査位置	御所市小殿　地内					北緯	34° 25’ 39.18”
発注機関	やまと広域環境衛生事務組合			調査期間	令和 4年 10月 14日 ～ 4年 10月 18日			東経	135° 43’ 19.36”
調査業者名	株式会社　大同ソイル 電話（0745-63-1850）	主任技師	大塚　孝	現場代理人	松川眞也	コア鑑定者	大塚　孝	ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	H=149.29m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機：KR-100H　ハンマー落下用具：半自動
総掘進長	18.00m								エンジン：NFAD-10　ポンプ：V5-P

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	145.49	3.80	3.80		盛土（礫混じり砂）	茶褐灰			真砂土による盛土。含水乏しい。 細砂～粗砂が混在する他、φ2～10mmの風化礫が多混。 不規則に少量のシルトが混じる他、深度3.0m以深、暗灰の塊状シルト混じる。
	140.49	5.00	8.80		礫混じり砂	暗茶灰	非常に密		中砂～粗砂が主体。細砂がポケット状に混じる。 φ2～10mm亜角礫が多混する他、φ20～30mm花崗岩礫の亜角～亜円礫が点在。 岩組織は認められない。
	139.54	0.95	9.75		砂質粘土	暗青灰		硬い	花崗岩の風化粘土。 所々、岩組織残るが全体は不明瞭。
	136.29	3.25	13.00		花崗岩強風化帯	暗青灰			風化が著しく、シルト混じり砂状となる。 岩組織は残るが、指圧で容易に潰れる。 岩級はN値からDM級程度。
	134.14	2.15	15.15		花崗岩風化帯	暗青灰			風化が進み、礫・シルト混じり砂状となる。 岩組織残るが指圧で容易に潰れる。 岩級はN値からDH級程度。
	131.29	2.85	18.00		風化花崗岩	暗青灰			比較的、新鮮な花崗岩。 やや硬質でハンマー打で鈍い金属音を発する。 岩級はCL～CM級程度。

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	3	4	4	11／30	11
0.45～1.15	4	5	7	16／30	16
1.45～2.15	4	4	4	12／30	12
2.45～3.15	2	2	2	6／30	6
3.45～4.15	33	17／5		50／15	100
4.30～5.15	40	10／2		50／12	125
5.27～6.15	17	19	14／6	50／26	58
6.41～7.15	24	26		50／20	75
7.35～8.15	20	24	6／2	50／22	68
8.37～9.15	3	4	4	11／30	11
9.45～10.15	9	9	11	29／30	29
10.45～11.15	10	13	16	39／30	39
11.45～12.15	11	12	16	39／30	39
12.45～13.15	16	18	16／6	50／26	58
13.41～14.15	18	21	11／4	50／24	63
14.39～15.15	50／6			50／6	250
15.21～16.00	50／4			50／4	375
16.04～17.00	貫入不能			50／0	
17.00～18.00	貫入不能			50／0	



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
9.15～9.45	P9	⊖	密・含・粒・液塑性	10／15
				10／17

ボーリング柱状図

調査名	御所市健康管理増進スポーツ施設整備事業に係る地質調査業務
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

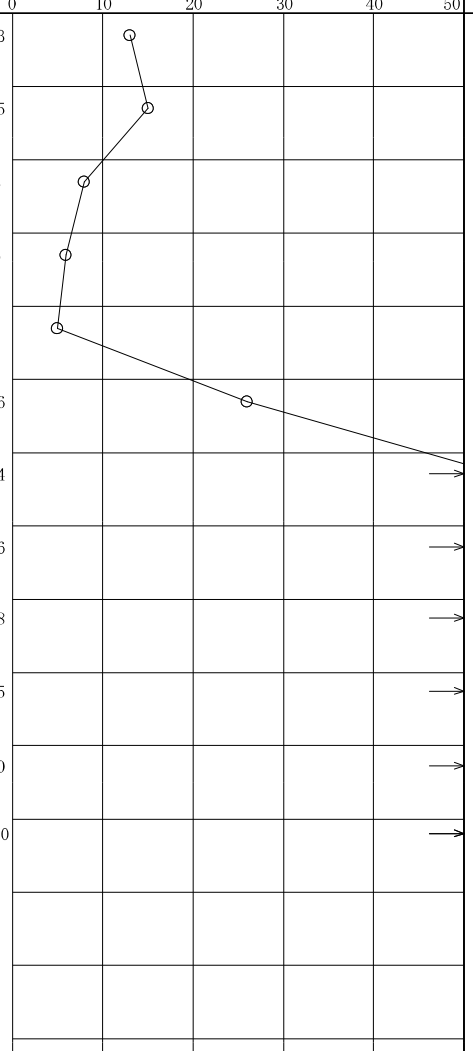
ボーリング名	Bor.6	調査位置	御所市小殿　地内					北緯	34° 25’ 39.54”
発注機関	やまと広域環境衛生事務組合			調査期間	令和 4年 10月 18日 ～ 4年 10月 21日			東経	135° 43’ 20.61”
調査業者名	株式会社　大同ソイル 電話（0745-63-1850）	主任技師	大塚　孝	現場代理人	松川　眞也	コア鑑定者	大塚　孝	ボーリング責任者	高月　元気
孔口標高	H=149.47m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	
総掘進長	11.25m								
試錐機	KR-100HB	ハンマー落下用具	半自動						
エンジン	NFAD-10	ポンプ	V6-A						

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	147.57	1.90	1.90		盛土(礫混じり砂)	茶褐			真砂土のよる盛土。含水は乏しい。細砂～粗砂が混在する。不規則にφ5～15mm風化礫が多混。
2	147.17	0.40	2.30		粘土	暗灰			旧表土。高含水比で細砂が多混。
3					砂質粘土	暗褐灰		中位	細砂が多混する他、粗砂～φ5mm以下の小礫が混じる。中含水比で粘性が強い。所々、腐植物片が混じる。
4	144.67	2.50	4.80						
5					花崗岩強風化帯	灰褐			風化が著しく、シルト混じり細砂となる。岩組織残るが、指圧で潰れる。部分的に長石多くシルト化する。岩級はN値からDM級程度。
6	143.47	1.20	6.00						
7					花崗岩風化帯	褐～褐灰～淡青灰			風化進み、シルト混じり砂～礫混じり砂状となる。岩組織は残るが指圧で潰れる。深度8.0m以深、淡青灰色を呈する。岩級はN値からDH級程度。
8									
9									
10									
11	138.22	5.25	11.25						
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									

孔内水位(m)／測定月日

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
0.15	3	4	6	13／30	13
0.45～1.15	4	4	7	15／30	15
1.45～2.15	2	3	3	8／30	8
2.45～3.15	2	2	2	6／30	6
3.45～4.15	2	1	2	5／30	5
4.45～5.15	8	8	10	26／30	26
5.45～6.15	15	17	18／8	50／28	54
6.43～7.15	15	20	15／7	50／27	56
7.42～8.15	21	22	7／2	50／22	68
8.37～9.15	23	27		50／20	75
9.35～10.15	17	20	13／5	50／25	60
10.40～11.15	50			50／10	150
11.25					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
3.15～3.45	P3	⊖	密・含・粒・液塑性	10／19